



日本繁殖生物学会 主催

公開シンポジウム・パネルディスカッション

肉やミルクがある暮らしを支えるための 科学と生産現場

2019年

2月9日 土

13:00~17:30

(12:30より受付)

毎日新聞 科学環境部長

元村 有希子

現代社会と科学・技術

科学・技術が私たちの予想を超えるスピードで進歩しています。人工知能(AI)はその典型です。コンピューターの能力に人間が太刀打ちできなくなる「シンギュラリティ」は来るのでしょうか。50年後の地球が「ユートピア」になるのか「ディストピア」になるのか。鍵を握るのは私たち自身です。ジャーナリストの視点から提言します。

三重加藤牧場 代表取締役

加藤 勝也

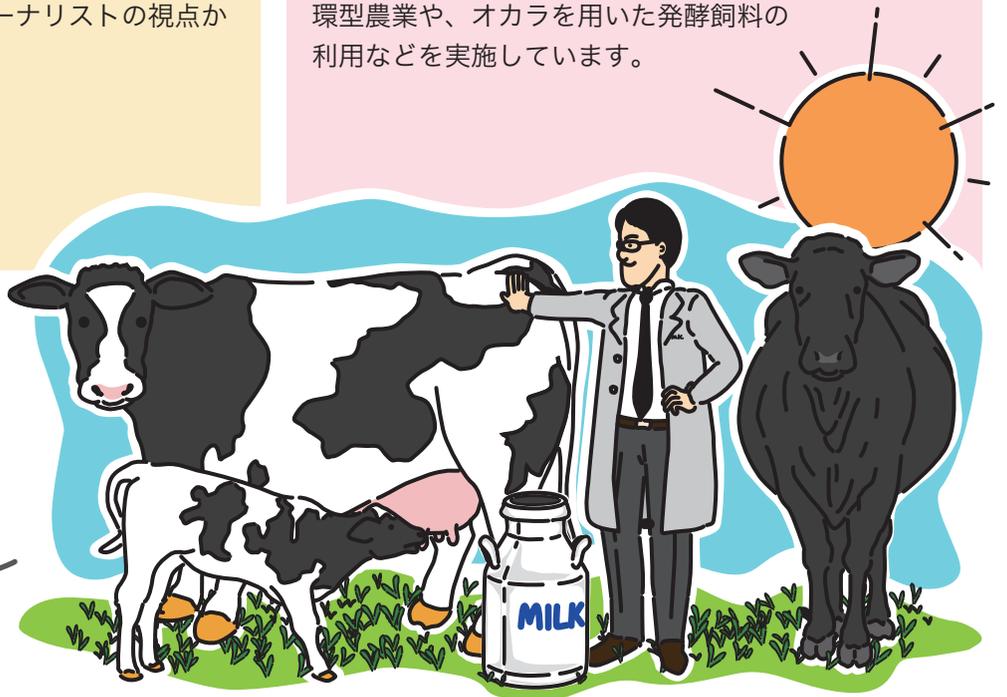
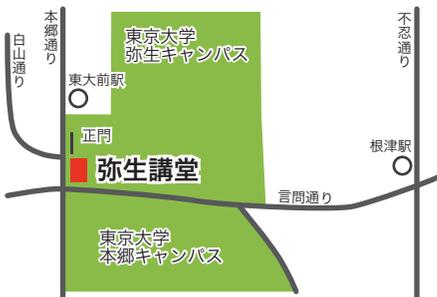
三重加藤牧場の紹介と研究に期待すること

三重加藤牧場は、臭気やハエ、騒音などへの対策を徹底することにより、住宅地に近い環境にありながら1000頭を超える黒毛和牛の繁殖・肥育一貫経営を行っています。新しく効果的な方法を常に模索しており、牧場の堆肥と地元産の粗飼料を循環させる資源循環型農業や、オカラを用いた発酵飼料の利用などを実施しています。

会場

東京大学 弥生講堂

(東京大学農学部内)



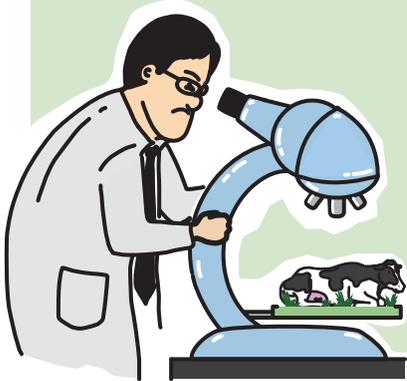
農業・食品産業技術総合研究機構

的場 理子

牛の胚移植とその普及

牛の胚移植技術とは何か。胚移植といえば人の不妊治療を思い浮かべる方もあるかもしれませんが、本講演では、供胚牛から胚を採取して借り腹牛に移植する「牛の胚移植技術」がどの

ように私たちの肉やミルクのある暮らしに関わっているのかについてこれまでの技術における開発の歴史もたどりながらご紹介したいと思います。



岡山理科大学 獣医学部長

吉川 泰弘

食料生産動物の繁殖と食の安全

「ヒトは肉好きのサル」と言われています。動物が、共生体として葉緑体でなくミトコンドリアを選んだ時から肉食を運命づけられました。脳の大半は脂質ですが、構成成分の必須要素は動物由来のアラキドン酸とDHAです。これはミトコンドリアの元祖プロテオ細菌が、TCAサイクルを回すために必要とした栄養素です。畜水産の振興はヒトがヒトとして生きていくために必要です。また、獣医師法によれば、獣医師は獣医事を司ることにより、「動物に関する保健衛生の向上、畜産業の発展を図り、合わせて公衆衛生の向上に寄与する」と書かれています。食料の供給と食の安全に貢献することを求められており、生産と消費を結びつける役割を負っていると思います。